

藤沢市体育協会広報紙PR版

名前をつけてください。

詳しくは本文に掲載してあります。

「藤沢市体育協会広報紙」

発行日 昭和60年7月1日

発行・編集 藤沢市体育協会

〒252 藤沢市遠藤3172 秋葉台文化体育館内

このたび藤沢市体育協会の広報紙を創刊するにあたり、一言御挨拶を申しあげます。

本協会は昭和二十一年、陸上、野球、庭球（軟式）、バレーボール、バスケットボール、水泳、剣道の八競技団体の加盟により藤沢市体育連盟として発足いたしました。

当時は終戦直後であり、市民は耐乏生活を余儀なくされ、人々は生きてゆくことに精一杯の状態で、特に青少年の健全な育成には適していなかったといえるでしょう。

創刊にあたって

藤沢市体育協会

会長 中山 二郎

このような環境から青少年を明るく、素直に育成するためには、教育とスポーツによる指導が最も重要なことと考え、特にスポーツの振興には、微力ながら全力を注いでまいりました。

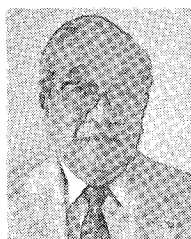
この年、市内では現在の鶴洋小学校が創立され、復旧の槌音が高らかに鳴り響き、スポーツ界では、第一回市民体育大会が挙行され、以来、本協会が企画し、本年は第四十回を迎えるに至りました。

十一月には、第一回国民体育大会

が開催され、藤沢市から湘南中学がサッカーの代表として出場し、見事全国制覇をなしとげ、市民に大きな希望を与えてくれました。

また、同じ年、湘南中学に硬式野球部が誕生し、三年後には甲子園球場で開催された選抜大会で優勝し、市民を熱狂させたものです。

このような時代を背景に、歴代会長をはじめ役員の方々の御尽力により、市民の皆様がスポーツを定着させるべく活動してまいりました。昭和三十年には、第十回国民体育



大会神奈川大会、三十九年には、第十六回オリンピック東京大会のヨット競技会場として江の島が使用されたのを契機に、市民のスポーツは従来の競技する者と、見て楽しむ者との二極化から脱皮し、自分自身プレーを楽しむ方向に変化し、現在は市民皆スポーツの感があります。

併せて、各種目競技協会も着々と整備され、現在、本協会は二十種目協会、会員二万三千余名を擁する程に成長してまいりました。

今や経済状態を含め、社会環境や

生活様式の変化に伴う余暇の増大、健康に対する意識の変化などによって、子供からお年寄まで、生涯楽しむことができるスポーツの重要性が強く叫ばれております。

昨年十月には、藤沢市民の中核施設として秋葉台文化体育館がオープンし、各種の大会が開催され、また鶴沼運動公園内の八部球場が全面改装されるなど、ますます市民の関心が高まっているなか、日頃、御努力を頂いている市当局の施策とは別の観点からこれらスポーツに対する欲求を満していかなくてはならないと考えます。

特に青少年やお年寄り、家庭婦人など、日頃スポーツに接する機会の少ない方々の環境を整備することが急務であると考え、独自の活動を展開する必要から、本年四月をもって「藤沢市体育協会」として再出発することにいたしました。

体育協会では、主体性のある施策を展開するため、自主財源の確保を図り、市民の皆様にも積極的な御参加をいただくため、賛助会員制度を導入いたしました。

この制度の詳細については別に掲載いたしましたので、趣旨に御賛同いただき、是非御協力いただきますようお願い申し上げます。

さて、新生なった体育協会の事業

展開などについて若干申し述べたいと思ひます。

役員等、執行体制につきましては、より活動的な理事長制度を導入し、会員や市民の要望に即応できる体制にいたしました。

また、理事会と評議員会に区分し執行機関と議決機関を明確にして、より民主的にいたしました。

その他、事業部と広域部の専門部を設置し、より積極的な活動を目指しました。

これらの体制によって得た成果を行政に具体的施策として生かすよう働きかけ、スポーツの振興に全力を傾ける所存であります。

現在、体育協会に加盟を希望する競技団体が幾つかあるよう伺っております。

今後体育協会は、ますます大きな組織として活動していかなくてはなりません。

私共、役員一同、精一杯の努力で藤沢のスポーツをますます盛んなものにしてまいりたいと思ひます。

皆様の積極的な御支援を賜りますよう御願ひ申しあげ、創刊にあたっての御挨拶といたします。

創刊によせて



藤沢市長
葉山 峻

藤沢市体育協会のご出発を心からお祝い申し上げます。

昭和二十一年、貴会が藤沢市体育連盟として発足以来、約四十年間にわたり、市民スポーツの興隆のためにご努力されましたことに敬意を表します。

特に市内全域から多くの市民の参加により行われる市民総合体育大会などを通じて、市民の体力向上と健康増進に尽力されるとともに、神奈川県、東京オリンピックと歴史に残るスポーツの祭典においても、その成功に向けて力を発揮されました。今日、生涯スポーツの時代を迎え、市民の健康維持に対する要求もあって、スポーツ人口は、年々広がっております。

スポーツを日常生活の中に浸透させ、その振興をはかり、市民の自主的・自発的な活動を助長するために、スポーツ活動の場の整備と同時に、組織的な指導や活動が重要であります。

このような時に、スポーツ愛好者

の技術の向上と市民の健康増進を目指して、時代の要請に即応した藤沢市体育協会として、新たなスタートを切られたことは、本市のスポーツ・レクリエーション活動にとっても大変喜ばしいことであります。

これまで、体育連盟としての活動を通じて蓄積された成果の上に、協会が益々ご発展されることを祈念いたしますとともに、新生した協会の自主事業として発行されるこの広報紙が、協会の内部はもちろんのこと、市民を含めたスポーツ振興の広場となることを念じて、お祝いのことばといたします。

創刊によせて



市議会議長
渡辺 光男

藤沢市体育協会広報紙の創刊誠にめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。

日頃、協会の役員の方がたを始め、関係の皆様がたには、本市スポーツの振興にご尽力をいただき、心から感謝を申しあげるものでございます。申すまでもなく、今日のスポーツの隆盛は、当協会の前身でございます藤沢市体育連盟が中心となって、あの戦後の荒廃の中からスタートし、今日まで普及につとめて来られ今日で丁度四十年目を迎えられることになった訳でございます。この四十年を節目とし、ここに新たな活動を始め、藤沢市体育協会として再出発された訳でございます。

その事業の第一歩として、この広報紙が発刊されることは、誠に時宜を得たものと思ひますし、末永く、多くの方がたに愛されるよう心から御期待申しあげるものでございます。この四十年間、日本のスポーツは、大きな変化を遂げて参りました。競い合う技として技術、体力の練磨か



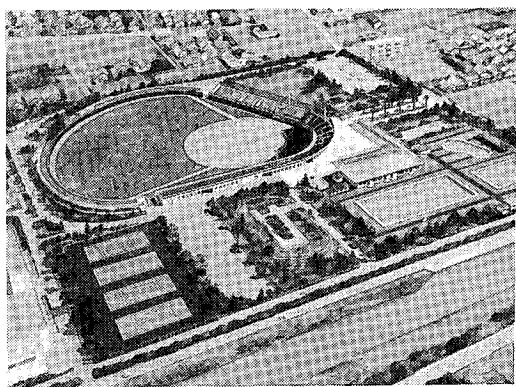
ら、今日では健康や体力の保持増進
そして家庭生活の充実という福祉の
増進に大きな役目をしているもので
ございます。

子供からおとしよりまで、スポー
ツにレクリエーションに思う存分汗
を流すことが明日への活力となり、
平和な、そして幸福な家庭を築く根
源でもある訳でございます。

貴協会に加盟をしている団体は、
二十競技団体と伺っております。

まだ多くの団体の加盟もあろうか
と思えます。

どうか、より充実した組織として、
より大きく飛躍されることを祈念申
しあげまして、お祝いのことばとい
たします。



祝 辞



教育長
神部 昭三

藤沢市体育協会の新生発足を心か
らお祝い申し上げます。

昭和二十一年藤沢市体育連盟とし
て結成以来、長年にわたり本市のス
ポーツ発展に大きく貢献されたこと
に對しまして、ここに改めて敬意と
感謝の意を表す次第であります。

さて、わが国における近代スポー
ツの歴史をたどってみますと、明治
以来競技者中心の思想が主流を占め
それを養成すること、その競技を
観て楽しむことが専らで、従って参
加する者の教はごく限られた世代の、
それも一部の者であったわけです。

ところが、戦後の昭和三十年代後半
かや、急激な科学、技術の進歩と社
会構造の変化等に伴って、国民の生
活水準も高まり、余暇の拡大、スト
レスの増大といった新たな状況が現
われてまいりました。さらに、昭和
三十九年の東京オリンピックの開催
が大きな刺激となって、国民のスポ
ーツ参加熱もにわかに高まり、行政
もこれに呼応して施設を用意したり、
団体の育成を援助するといった施策

を講じてまいりました。

今や、スポーツは観て楽しむもの
から、参加して楽しむものへと様変
りをしたわけであります。その結果、
市民や職域同好者による各種のスポ
ーツクラブの加入者、さらには個人
でジョギングやサイクリングを楽し
む人たちまで含めると、大変なス
ポーツ人口になってきているのでは
ないでしょうか。

藤沢市といたしましても、そうし
た状況に對応すべく、秋葉台文化体
育館の建設を初めとして八部運動公
園の拡張、その他スポーツ施設の整
備・開放に努めておるところであり
ます。

ここに新生発足されました藤沢市
体育協会の充実発展をお祈りすると
同時に、藤沢市のスポーツ振興のた
めに、なお一層の御協力を賜ります
ようお願いいたしまして祝辞といた
します。



応募してみませんか

新生体育協会では、広報紙の創刊
に伴い、広報紙の名前と、協会の象
徴となるシンボルマークを、次の要
領で募集しますので、奮って御応募
下さい。

◎ 広報紙の名前を募集

一、体育協会の広報紙にふさわしく
皆さんから親しまれるもの。

二、漢字、ひらがな、カタカナ、英
語などは問いません。

◎ シンボルマークを募集

一、デザインは、未発表のものに限
ります。

◎ 配色は三色以内にお願ひします。

一、官製ハガキの裏面に作品を一点
だけ記入し、簡単な説明と住所、
氏名、年令、電話、職業又は学
校名を明記のうえ、七月三十一
日までに「藤沢市遠藤三二七二、
秋葉台文化体育館内、藤沢市体
育協会」までお送り下さい。お

一人何点でも結構です。これら
を選考委員会で選考のうえ、そ
れぞれ最優秀作一点、優秀作三
点に記念品を贈呈いたします。

表彰は、九月一日に挙行される
市民総合体育大会の開会式を予
定しております。

◎ 応募作品は返却いたしません。

◎ 最優秀作品の著作権は、本協会
に帰属します。

賛助会員入会

についてお願い

昭和二十一年藤沢市体育連盟が発足し、スポーツを通じて健康で明るく豊かな市民生活が送られるよう願って活動してまいりました。

近年、社会環境や生活様式の変化、余暇の増大に伴いスポーツ・レクリエーションの必要性が高まるなかで時代に既応するため、組織と活動内容を一新し、スポーツ愛好者の技術進歩と一般市民の体力の向上を目的として昭和六十年四月から「藤沢市体育協会」として再出発することになりました。

しかしながら、これらの事業推進にあたりましては、多額の財源が必要であり、本体育協会といたしましても組織をあげて財源の確保をはかり、主体性を確立するとともに、市民の多様化したスポーツ欲求を満していかなくてはなりません。

このような意味から賛助会員制度を設けた次第です。なにとぞ、趣旨に御賛同頂きまして、是非御入会くださるようお願い申し上げます。

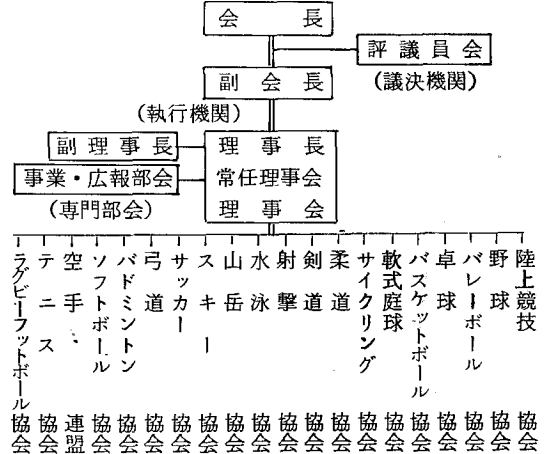
御入会いただきました方には、会員証及び記念品をお贈りし、次の様

- な御案内を致します。
- 一、本体育協会各事業の御案内
 - 二、体育協会ニュース等の送付
 - 三、新ルールの講習や指導者の派遣
 - 四、要請があれば、職場や地域におけるスポーツ大会への協力

- 会費の払い込み方法等
- 一、会費は、個人会員の場合、一口三千円で一口以上。
 - 二、団体会員は一口一万円で一口以上。
 - 三、会費は、個人会員の場合、一口三千円で一口以上。
 - 四、上お願い致します。
 - 五、現金書留又は、銀行、郵便局から振込みの方法があります。
 - 六、現金書留の場合は、住所、氏名、電話、勤務先、申込口数を記入のうえ「〒252 藤沢市遠藤三二七二 秋葉台文化体育館内藤沢市体育協会 会長中山二郎」まで、御送金ください。
 - 七、銀行、郵便局から振込みを希望される場合は、電話で御連絡いただければ、早速資料をお送り致します。
- TEL 88-1111

組織図、役員名簿

本年四月から新組織となった「藤沢市体育協会」の組織と役員を御紹介いたします。



役職名	氏名	選出母体
会長	中山二郎	サッカー
副会長	西島一光	野球
理事長	柳川智賢	バレーボール
副理事長	関根俊夫	卓球
常任理事	青島勝彦	バスケットボール
	小泉隆	軟式庭球
	山田清隆	サイクリング
	杉山隆	バドミントン
	宮本誠	ソフトボール
	北代康誠	テニス
	加藤誠	ラグビー
	藤田正辰	射撃
	黒田裕	水泳
	金子嗣	山岳
	番場康之	スキー

役職名	氏名	選出母体
理事	久木田善藏	水泳
	熱田真一	スキー
	徳島秀明	弓道
	井上吉男	バドミントン
	島山正美	ソフトボール
	大村光宏	空手
	木村英夫	テニス
	鈴木和夫	ラグビー
	永淵泰清	陸上
	山田勉	バレーボール
	杉山喜一郎	野球
	瀬戸邦幸	卓球
	森永秀次郎	バスケットボール
	大山隆一	軟式庭球
	平本昇策	サイクリング
	柴崎鉄雄	射撃
	石井幸夫	水泳
	正木凌	山岳
	尾崎樹仙	スキー
	平田登	サッカー
	浜田徹	弓道
	石井栄	バドミントン
	梅沢幸一	ソフトボール
	熊谷卓三	空手
	高山年正	テニス
	野口禎一	ラグビー
	日置寧二	バスケット
	高原晴夫	剣道
顧問	大原正明	
参事	関水	
顧問	田辺政吉	
参事	安川良彦	

以上の役員で一生懸命頑張りますので、宜しくお願いいたします。体育協会のことで不明な点がありましたら、お気軽に事務局へどうぞ。事務局は、藤沢市遠藤三二七秋葉台文化体育館内 88-1111